

市長定例記者会見（令和4年6月29日）録

11時30分～12時03分

まず、題材に入ります前に、新型コロナウイルス感染症の感染状況につきまして、一言申しあげたいと存じます。

○ 香川県におきましては、県内の新規感染者数が減少傾向にあることや、医療提供体制が十分に確保されていることなどから、6月20日（月）から、香川県対処方針に基づく対策期を1段階引き下げ、下から2番目である「感染警戒対策期」に移行しております。

○ 本市におきましては、6月27日（月）に、13日ぶりに新規感染者数は、50人を超えましたが、15日（水）から、概ね30人から40人程度の日が続いております。また、週ごとの感染者数は、19日の週には232人となり、5月中旬以降、6週連続で、前の週を下回っております。

○ 年代別の直近1週間の累積新規感染者数の推移を見ても、ほぼ全ての年代において減少傾向が見られており、6月に入り、部活動におけるクラスターなどにより、一旦、増加に転じた10歳代の感染者数も、減少傾向になるなど、感染の波は、ようやく落ち着きを見せてきたところではないかと考えております。

○ また、ワクチンの接種状況は、6月23日（木）時点で、3回目接種を終えた方は、約24万9,000人、接種率は、58.4%で、そのうち、20歳代は、43.5%、12歳以上の10歳代は、29.5%に留まっております。

○ さらに、開始から、およそ1か月が経過しました、4回目接種につきましては、

23日（木）時点で、60歳以上の902人のほか、基礎疾患のある24人、計926の方が接種を終えられている状況でございます。

○ 4回目接種は、重症化予防効果が期待されておりますので、高齢者など、重症化リスクの高い方は、早めの接種を御検討ください。

○ 一方、市民の皆様には、これまでも、基本的な感染防止対策として、マスクの着用は極めて重要であり、会話などをする際には、マスクを着用していただくようお願いをしているところでございますが、市内では、ここ数日、最高気温が

30度を超える、蒸し暑い日が続き、熱中症のリスクが高まっております。

このため、屋外では、会話がほとんど行わなければ、マスクを外すようにしていただくとともに、室内でも早めの水分補給やエアコンを使用するなど熱中症の予防に心掛けていただきたいと存じます。

次に渇水についてお話をさせていただきます。昨日、気象台の発表により四国地方の梅雨が明けたということで、6月中の梅雨明けは史上初ということでございますし、梅雨に入ってから期間が15日間というのも史上最短だったとお聞きしております。

四国が梅雨入りして2週間ほどですけれども、この間本市でまとまった雨が降りましたのは4日間ございまして、平年の27%ほどの27mmということで、県内の降水量を大きく下回っている状況でございます。

このようなことから本日29日の午前8時時点での早明浦ダムの貯水率は34.8%ということで、平年に比べ50ポイント以上低くなっている状況でございます。このままの状況が続きますと、早明浦ダムの貯水率が7月1日に30%を下回る見込みでございまして、7月中旬にはこれまでで最も早く早明浦ダムの貯水量が0%になる見通しでございます。吉野川水系の水利用連絡協議会におきましては、貯水率が30%を下回ると香川用水の水の供給量を50%削減する、いわゆる第3次給水制限を行う予定でございます。この場合、香川用水の受水市町は減圧給水を実施することになりますが、不足する水道については、香川用水の調整池であります宝山湖の他、樺川ダムや内場ダムなどの自己処理水源の活用で賄うということで、市民生活や産業生活動にただちに影響がでることはないとお聞きしているところでございます。

ただ今年はかなり早いペースで渇水が進んできておりまして、市民生活に大きな影響を及ぼしました、平成6年の大渇水のような事態も考えられるような深刻な状況になっているというのは確かかと思っております。

第3次取水制限となった場合に、香川県広域水道企業団におきましては、減圧給水の強化や予備水源の取水対策を行うということとしておりまして、本市におきましても、渇水対策本部を設置したしまして、節水への啓発活動を始め、関係団体等への節水協力依頼や、善意の井戸の募集、井戸水の水質検査料の減免など、種々対策を講ずることとしております。

この渇水対策、深刻な水不足を回避するためには、皆さま1人1人の節水が何よりも大切なものと存じています。市民の皆さま方におかれましては、水道の自主減圧や風呂の残り湯の再利用など、より一層の節水と、水の有効活用に御理解御協力をよろしくお願いしたいと存じます。

#### 新型コロナワクチンの接種率向上強化月間における新たな方策について

それでは、題材に入らせていただきます。本日は5件ございます。

まず、はじめに、新型コロナワクチンの接種率の向上に向けまして、7月を強化月間として新たな取組を行ってまいりたいと存じます。

先ほども冒頭で申し上げましたように、感染状況は落ち着きを取り戻しておりますものの、3回目接種については、特に12～19歳の接種率が、3割程度と、依然として、若い世代の接種率は低い状況でございます。

また、これから夏休みやお盆休みを控え、市内でも、高松まつりや瀬戸内国際芸術祭の夏会期など、様々なイベントが開催される予定となっており、さらに人の動きが活発になることが予想されます。

そこで、本市といたしましては、4月中旬から5月にかけて実施いたしました集中取組に続き、若者世代を中心に、より接種を促進するため、7月を「新型コロナワクチン接種率向上強化月間」と位置づけまして、市役所13階大会議室で行う集団接種におきまして、3つのテーマを掲げて新たな取組を実施いたします。

取組内容といたしましては、資料のとおりでございまして、参議院選挙の期日前投票の最終日となります9日（土）に、18歳以上の若者世代を対象といたしまして、予約なしの集団接種を実施するほか、15日（金）と16日（土）の2日間、集団接種会場にマイナンバーカード申請の特設ブースを設けまして、相乗効果を図りながら、ワクチンの接種率の向上につなげてまいりたいと存じます。

さらに、15日（金）から17日（日）には、3夜連続で、学校や仕事帰りの若者世代を対象といたしまして、集団接種を実施いたします。

接種スケジュールは、資料のとおりでございますが、7月は、全体で延べ8日間、3,000回分の接種を予定しています。

3つの取組を含めた7月の集団接種の予約は、先日27日（月）から、本市のオンライン予約サイトやコールセンターでの予約受付を開始しております。

ワクチン接種は、コロナ収束のための有効な手段でございます。

若者世代の皆様を始め、市民の皆様におかれましては、是非とも、積極的な接種について御検討いただきますとともに、この機会を、ぜひ御活用いただきますよう、お願い申し上げます。

#### 高松市屋島山上交流拠点施設「やしまーる」のオープンについて

続いて、現在、整備を進めております屋島山上交流拠点施設「やしまーる」が、この度、8月5日（金）にオープンすることが決定いたしましたので、御報告をいたします。

「やしまーる」は、平成26年5月に施設の基本構想を策定し、令和2年3月に工事に着手をいたしました。

これまで、新型コロナウイルスの感染拡大による工事の遅れや、天然記念物である安山岩が見つかり設計変更を余儀なくされるなど、課題もありましたが、去る3月末に建物が竣工し、現在は、残る外構部分の工事を進めているところでございまして、この工事も、来月7月中旬には完了する見込みとなっております。

「やしまーる」は、全長約190mの回廊型の建物で、自然との一体感を感じられる作りになっており、ガラスを多く取り入れた展望スペースからは、「日本の夕陽百選」や「夜景百選」に選定された絶景を堪能することができます。

また、8月5日から始まります「瀬戸内国際芸術祭2022」の夏会期の作品にも位置付けられており、アートとしての魅力を持った、独創的なデザインで、屋根には本市が世界に誇る地域資源である庵治石製の瓦を、およそ3万枚使用しております。

さらに、施設内には、源平合戦をテーマに描いた、「パノラマアート」が展示される予定でございまして、約180度に広がる絵画で描かれた空間の中に、あたかも自分がいるかのような体験ができるパノラマは、国内では、ここでしか見ることのできない大変貴重なアート作品となっております。

このパノラマアートは、芸術祭の秋会期の作品となっており、10月の公開に

向けて、現在、作業を進めているところでございます。

オープン前日の4日（木）は、オープンに先立ち、「やしまーる」の完成を記念して、午前10時から、関係者によるオープニングセレモニーを執り行いたいと存じます。

また、セレモニー後には、報道関係者の方を対象とした内覧会を実施し、施設を御案内いたしますので、ぜひ、お越しいただきたいと存じます。

「やしまーる」は、屋島の新たなシンボルとして、観光客の増加はもとより、市民の皆様にも、屋島の魅力を改めて感じていただく絶好の機会になるものと存じておりますので、今後、様々なイベントなどを通じて、屋島の魅力を広く発信し、屋島の活性化に、つなげてまいりたいと存じます。

#### 「たかまつKIDSプログラミングコンテスト2022」の開催について

このほか、3件につきましては、簡単に御報告をさせていただきます。

まず、1件目は、「たかまつKIDSプログラミングコンテスト2022」を昨年度に続き、開催をいたします。

本市では、「スマートシティたかまつ」の実現に向けた取組を推進しておりますが、今年度も、本市の未来を担う人材の育成を目的に、本市在住の小学生を対象としてプログラミングコンテストを開催いたします。

全国のコンテストにも同時エントリーできる仕組みとなっておりますので、多くの小学生にチャレンジいただきたいと存じます。

#### 飼い主のいない猫を増やさない！！

##### ～たかまつwithにゃんこプロジェクト2022～の実施について

2件目は、野良猫の殺処分数を減らすため、クラウドファンディングによる「たかまつwithにゃんこプロジェクト2022」を実施するものでございます。

本市では、やむを得ず殺処分される不幸な猫の数を減らすため、昨年度から、飼い主のいない猫への不妊去勢手術費用の一部を助成する事業を実施しております。

すが、その費用につきまして、ふるさと納税の対象となるクラウドファンディングを実施いたします。

このプロジェクトを通じて、市民の皆様のみならず、広く全国の皆様に、動物の命の大切さや、人と動物のより良い関係について、改めて考えていただく機会にもなればと存じておりますので、皆様方の温かい御支援をお願いします。

#### 高松市美術館特別展「みる誕生 鴻池朋子展」の開催について

3件目は、「瀬戸内国際芸術祭2022参加展覧会」として、「みる誕生 鴻池朋子（こうのいけ ともこ）展」を、本市美術館で開催いたします。

今回は、美術館の広いエントランスホールに、牛皮を継ぎ接ぎした、幅12mもの「皮トンビ」など、新作を含む約60点のほか、美術館の収蔵品などが、あらゆる場所に展示され、目で見ただけではなく、手や鼻や耳など体全体で作品と出会うことができる特別展となっております。

ぜひ、鴻池朋子（こうのいけ ともこ）の独創的な世界を多くの方に、お楽しみいただきたいと存じます。

私からは以上でございます。

#### 【記者質問】

##### 【記者】

高松市が8月に開設を予定している夜間教室の応募状況と、夜間中学の開設に対する考えは

##### 【市長】

本市で今年度8月から予定していますが、開設いたします夜間教室は、義務教育を修了しないまま学齢期を経過した人や、不登校など様々な事情から、十分な教育を受けられず中学校を卒業した人などを対象に、生涯学習の一環として、学び直しの機会を提供するものでございます。

今年度は、8月から、原則、第2、第4木曜日の午後6時から8時まで、全

10回の実施を予定しております。受講生は、小学校、中学校で学習する国語、算数（数学）を学ぶことができ、講師は教員経験者が担当をいたします。

本市教育委員会によりますと、今月1日から受講生の募集を開始し、定員8名に対しまして、28日時点で、10名の申込みをいただいております。今後、申し込みいただいた方から、これまでの学習状況や、学習したい内容などを聞き取りした上で、受講生を決定することとしております。

夜間中学の設置につきましては、この夜間教室を通して、市民の皆様の学び直しを支援していく中で、受講生からの意見やニーズ、さらには、問い合わせが夜間教室、あるいは夜間中学についてきています。それらを参考にしながら、この夜間教室の状況を見た上である程度時間が経ち、その上で判断させていただきます。

【記者】

夜間中学の開設の方向性は

【市長】

そのようなニーズが高く、必要があり、設置すべきという考えになることも十分に考えられます。ある程度夜間教室を行いながら、1年くらいは行った上で総合的に判断していきたいと考えています。

【記者】

渇水に対する今後の対応は

【市長】

今のまま雨が降らずこのまま早明浦ダムの貯水量が減っていくとすれば、7月1日に30%を切るということで、それに応じて、減圧給水をやる必要があるもので、市の方としてもその時点で対策本部の設置をと考えています。その上で節水を市民の皆様に呼びかけたり、給水栓を絞った上で減圧給水を行っていただくなどの呼びかけ、使える井戸は水質検査を手数料減免しながらやっていただき、善意の井戸という形で色んな方に使っていただくという取り組みもやっていきたい

と思います。

これらについては湯水時の対策要領という形でこれまでやってきているので、同様な対策本部を作った上でしっかりとやっていきたいと思います。

【記者】

梅雨明け早々に湯水対応を行わなければならないが、その所見は

【市長】

梅雨明けが6月になったというのは史上初めてで、梅雨期間が15日間というのも最短であったということです。これまでにない湯水の状況、雨の降らない状況ということで、そういうことを十分に勘案した上で、危機感を持って対応に当たる必要があると思います。

ただ当面は、宝山湖、自己処理水源を活用ということも考えられるので、すぐにどうこう大きな支障が出るわけではありませんが、雨がいつ降るかは確定していませんので、色んな状況も勘案しながら、対策を取ってまいりたいと思います。

【記者】

新型コロナワクチンの接種率向上強化月間について若い世代への呼びかけをお願いしたい

【市長】

ワクチン接種については、これまで3回目接種、4回目接種も始まりましたが、3回目接種について高齢者の方は多くの方が受けていただけていますが、若年層が30%を切るという状況で低く、何らかのキャンペーン的なものでより接種を受けていただくようにしたいということで5月にも接種キャンペーンをやりました。今回も新たに選挙、マイナンバーカード、より利用しやすい時間帯に設定をするなど、そういうことで工夫をし、少しでも接種促進できるような形に持っていきたいということで、今回強化月間ということでこういう仕組みを考えました。



重症化予防効果などは十分に証明されており、安全性も確認されているので、ぜひ希望する方ができるだけ多くの方が接種を受けられるように、我々としては体制を整えてやっていきたいと思います。

【記者】

ワクチン接種率が全国平均より低いため、ワクチン接種率向上の強化に取り組むのか

【市長】

全国と比べて若干低いかもしれませんが、本市は数字が表れるのが1週間遅くなったりするので、若干全国より低いかと思いますが、いずれにしても希望される方が、確実に接種を受けていただけるように、そういう機会をある程度利用しやすい形で設けていく、インセンティブが働くように選挙やマイナンバーカードと組み合わせたりして、少しでも接種をしていただける方を増やしていく、そういうことで今回強化月間として考えました。

【記者】

屋島山上交流拠点施設「やしまーる」整備事業費が約16億円に上っているが、その所感は

【市長】

やしまーる、屋島山上交流拠点施設ですが、ビクターセンター的な役割を持つような屋島の活性化の基幹事業として、屋島活性化基本構想に位置づけられ、設置することにしました。

事業費については、同規模の施設についてということで、他の例としては6億円という話がありましたが、そもそもやしまーるは設計段階で国際プロポーザルを用い、それで選ばれた設計者によって設計が成され、当初の予算規模、設計金額自体は10数億円でした。ただ、その後、入札不調等があり、設計変更もあり、若干割高になり、最終的に総事業費という意味では16億円ですが、ある程度その中で納まって、施設が完成に向かったということ自体についてはよかった

と思っています。若干経費等については上乘せになったところではありますが、それぞれ仕方がないといえますか、課題に対応するための経費であったと思っています。

【記者】

「やしまーる」への集客をどの程度見込んでいるのか

【市長】

集客率というか、ニーズまでの確定まではしていませんが、屋島全体の活性化を図るということで、今現在コロナの影響で減っていますが、コロナ前ですと、だいたい50万人前後で屋島山上の観光客は推移していましたが、それらを活性化することによって70万人程度の観光入れ込み客数を望みたいということで、各種事業を展開しています。

【記者】

「やしまーる」の経済効果をどの程度見込んでいるのか

【市長】

経済効果というか、それを目的にたくさんの方が屋島山上を上ること、それによって高松での観光の滞在期間が長くなる、それによる経済効果はあろうかと思っています。

一応ビジターセンターとして屋島の歴史や文化、自然を紹介するような役割、それから高松市は今MICE振興をやっていますが、MICEの国際会議、全国会議での階催場所、いわゆるユニークベニューとしての位置づけもあろうかと思っています。そのような形で有効に活用していければと思います。

具体的に計算自体は出していませんが、入込客数70万人を目標としながら、高松での滞在時間を長くしてもらい、特に経済効果が高いとされる宿泊客の確保に結び付けられるように考えてまいりたいと思っています。

【記者】

「やしまーる」は瀬戸内国際芸術祭の作品でもあるが、今後の活用策は

【市長】

瀬戸芸の作品には位置づけられていますが、もちろん公共施設なので、やしまーるとして展望施設、会議施設は貸館料など使用料をいただきながら活用していくということになります。パノラマアートは常設展示なので有料観覧ということになります。これを続けていきます。ですから、通年を通じた観光施設として大いに活用していくことになると思います。

【記者】

第3次取水制限が実施されれば、どのような団体に節水を呼びかけるのか

【市長】

節水の啓発については、まず市民の皆様には新聞折り込みチラシで広く啓発をしていきます。市庁舎、総合センターなどに懸垂幕を設置します。それぞれの団体にも節水の協力の呼びかけ、チラシ配布、会議等を通じてのお願いなどを広くやっていきたいと思っています。

【記者】

三豊市の夜間中学に不登校の中学生が入学を希望しているが、その所感は

【市長】

不登校の問題については高松市においても、学校には行けないけど、にじの部屋というのを作っており、そこで滞在し自主学習をやっていただくという対応をえています。個々に応じた不登校対策をえています。そういう中で、どうしても夜間中学に通いたいという方がいるのかどうか、それぞれの夜間教室を開きながらニーズがあるのかどうなのか、それらについて見極めていきたいと思っています。

**【記者】**

三豊市の夜間中学には高松市から通っている方がいるが、経費負担について三豊市と覚書を交わす予定はあるのか

**【市長】**

高松市の住民が通われているものについて経費をどうするかというのは、三豊市さんとの間で色々やりとりはございましたが、今のところは三豊市さんの負担でお願いをしています。その辺についても、県下全域で広域的に夜間中学をどう考えるかある程度はっきりした段階で、きちっと経費負担は決めていくべきだと思っています。